



行列ができる寿司店「秀吉」 コロナ禍で破産に追い込まれる

まぐろ食べ放題で人気の寿司店

横浜を代表する観光地、みなとみらい地区。新型コロナウイルスの感染拡大以前は、休日ともなれば国内外の観光客で連日賑わいを見せていました。みなとみらい地区の玄関口のひとつ、ＪＲ桜木町駅から徒歩２分の好立地にある、「まぐろ食べ放題ランチ」で有名な寿司店「秀吉」を営む有限会社秀吉が、今年３月３０日に横浜地裁から破産開始決定を受けました。

同社は１９９６年に創業し、２０年以上にわたって「秀吉」の店名で寿司店を経営してきました。本店の桜木町店を中心に、最盛期には伊勢佐木町、川崎市など神奈川県内に５店舗を構え、アルバイトを含めた従業員数は５０名近くにのびました。近隣住民や観光客需要も取り込み、２００１年８月期の年売上高は約７億円を計上していました。一貫が大きい「ジャンボ寿司」のほか、金曜日の「食べ飲み放題」、土曜日ランチには「まぐろ食べ放題」を実施。雑誌やテレビでも取り上げられ、ランチ時には行列ができるほどの人気店となりました。

コロナ禍で営業環境が悪化

人気店とはいえ近隣飲食店との競合は激しく、２００１年８月期をピークに需要は減退。不採算店の閉鎖を余儀なくされるなか、２０１２年１０月には関連会社の「秀吉水産」が破産開始決定を受けるなど、厳しい運営が続きました。

２０１７年に川崎店を閉店して以降、桜木町店の１店舗体制に縮小していたうえ、２０２０年に入ってから新型コロナウイルス感染拡大により営業環境がさらに悪化。外出自粛による来店客の減少や営業時間の短縮等もあり、２０２０年８月期の年売上高は約９,０００万円にまで落ち込み、赤字決算となっていました。

その後も感染対策の徹底などでしのいでいましたが、年末年始の書き入れ時も国内感染者数の急増時期と重なったこともあって振るわず、２０２１年１月末をもって事業を停止し、ついには破産に追い込まれました。

飲食店の倒産が再び増加傾向に

帝国データバンク調べによれば、取引金融機関から借入金の返済条件変更（リスケ）を受けた企業の「返済猶予後倒産」を業種別に見ると、最近は飲食店を含む「小売業」の増加が目立つようです。日銭商売である小売業は本来、他の業種に比べて資金繰りに余裕があるものですが、コロナ禍の外出自粛による“売上蒸発”で手元資金が枯渇し、銀行からリスケ支援を受けてもなお破綻に至るケースが相次いでいます。

飲食店向けに１日６万円の「時短協力金」が支給された際、飲食店倒産は一時的に減少していましたが、３月には再び増加に転じています。すでに過剰債務で新規の資金調達が困難な飲食店も多く、２０２１年度も倒産は高水準で推移する可能性が高いと言わざるを得ません。▲

ないう おさむ ２０００年に株式会社帝国データバンク入社。本社情報部、産業調査部、東京支社情報部を経て２０１８年１０月より現職。入社以来一貫して、倒産企業の取材、倒産動向のマクロ分析を手がける。専門は倒産動向分析、企業再生研究。